取材・文／藤枝雅一　写真／ポン・フォト・サービス　細川正人

展示会の会場として開放された元立誠小学校。たった2日間で2000名を越える入場を記録、街ゆく人がいかにアートに渇望していたかがうかがえる数字。芸術文化を推進するためのアートアワード基金にも多額の寄付が寄せられた。

協賛企業の協力により、無料でコーヒーなどのドリンクがふるまわれた「アートカフェ」。初日には渡辺チカラ氏によりライブペインティングが開催。さらに2日目にはゴアトランスパーカッショニスト山崎康氏とのコラボレーションが実現した。

JCC '96 ART AWARDS

次世代の文化創造を目指して 経済人とアーティストが交流

1996.11.15 fri 16 sat at RISSHEI ELEMENTARY SCHOOL and CK cafe

JCCの会員たちによる厳正な審査で、各部門の優秀賞およびJCC'96大賞が決定される。

長い歴史と伝統を持ちながら、高い芸術的感性を持った人々が醸成されにくい状況にある「京都」。この文化の閉塞的状態にあるこの街の在り方に一石を投じるイベント、「JCC'96 ART AWARDS」が開催された。これは京都のモダンアーティストの作品を展示するもので、主催は経済人と創造人の交流を通じて文化・芸術・産業の発展、振興を目指すJAPAN CREATORS' CLUB（JCC）。この団体、もともとは1993年1月15日、MR、HALというレストランで開催された、交流会に集まった、企業人・経営者からファッションデザイナー、陶芸家など、広義でいうところのクリエイターを基本に発足した団体。しかし今回はその交流会をさらに発展させ、広く社会を知られることなく才能を眠らせている若手アーティストに発表の場、出逢いの場を提供した。

展覧会は建築的にも文化的価値の高い元立誠小学校にて開催。一次審査を通過した22組約70点が公開された。作家自身が現場で作品の解説を行ったり、実際に観客が体験できる立体造形が公開されるなど、従来ありがちな一方向的でないクリエイティブな場が実現した。続いて祇園CKカフェにてグランプリアーティストの表彰式も兼ねた「THE GRAND PARTY」を開催。JCC会員により①感性度②前衛度③新価値観の示唆度④好感度⑤可能性度を基準に選考された各部門の優秀賞・グランプリを表彰した。

若手アーティストと経営者が等しい立場で相まみえたこのイベント、飛躍するきっかけをつかめずにいたクリエイターにはパトロネージ（理解支援者）との「出逢い」が実現し、各経営者・クリエイターにとっては、若い感性との「出逢い」こそ、あらゆる面で刺激となったに違いない。開催にあたったJCC事務局では「この活動を一過的なものにするのではなく、今後とも継続してゆきたい」としている。

ファッション部門優秀賞
仲野達夫氏は性を越えたエレガンス溢れる作品を発表。

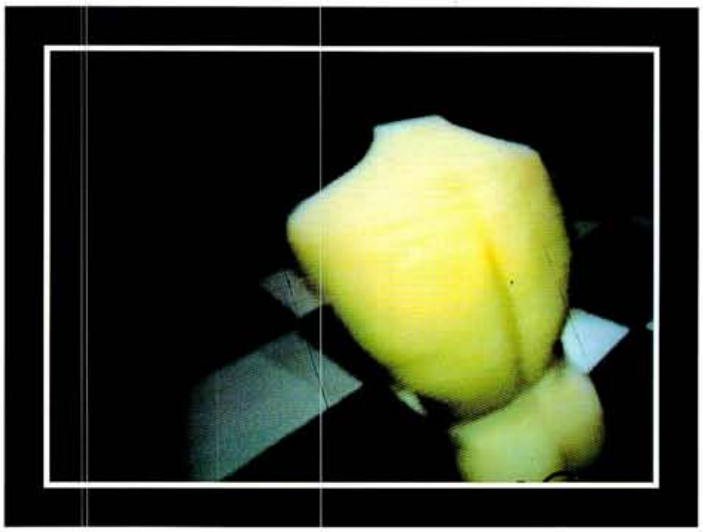
「女性から見てカッコイイ、ステキな女性として着るひとをより魅力的に見せる服作りをしたい」と斉藤上太郎さん。

「日常のワンシーンに潜む心の位地を表現したい」という常山恵美さんが採用した手法は、セルフポートレイト。

写真部門優秀賞
一連の作品群をブックレット形式で発表した市川靖氏。

本誌でも活躍中の中川アキラさんは様々な分野の作家とのコラボレーションで刺激しあいながら、そのときどきのインスピレーションでイメージを創造。

現代音楽部門優秀賞
鍵盤ハーモニカの奏者、野村誠氏。来場者に演奏の手ほどきも。



JCC賞 グランプリ

マルチメディア映像を手がけるMULTISから、吉田ヤスコ、森原ノリユキらが出品、クオリティーの高い映像で大賞を受賞した。

立体部門優秀賞
1階エントランスに設置された木村年克氏の「WOMAN」は、土を素材に使用。

「美しい女、強い女、弱い女・・・女から見た女」を描いたという中西陽子さんは作品「女ざかり」。

樹脂による絵画「うつしだされた人のかたち」他。五十嵐英之氏作。

ばんばまさえさんは布を縫いつづって作られた立体、「フルーツ」「Untitled」を出展。

水口磨紀さんは「変容」「夜の水」などの3点の彫刻を。

「はえる→そだつ→いつくしむ」と名付けられたテキスタイル（手前）は教室を効果的に利用した。野田早穂美さん作。

今回の作品は「海の中で、ゆらめいているような、植物的な生き物をイメージした」語る川合千束さん。

各部門ノミネートアーティスト

■立体部門

木村年克　陶芸「WOMAN」
ばんばまさえ　テキスタイル「フルーツ」「Untitled」
野田早穂美　ミクストメディア「はえる→そだつ→いつくしむ」
川合千束　テキスタイル「COLL THREE SOME」
水口磨紀　彫刻「変容」「夜の水」他
久田多恵　テキスタイル「アシアトのないアシアトヒトのいないヒトカゲ」

■平面部門

五十嵐英之　洋画「うつしだされた人々のかたち」他
中西陽子　油絵「女ざかり」他
宮野タクヤ　CG「ことだま」
渡辺チカラ　モダンドローイング「In the Apartment」

■写真部門

中川アキラ　イメージフォト「SOUND OF SILENCE」
常山恵美　セルフポートレイト「SELF PORTRAIT」
市川靖　イメージフォト「Packerge uncomplete」

■ファッション部門

斎藤上太郎　セルフブランド「OTIAS」
仲野達夫　セルフブランド「TRANK MARY」

■現代音楽部門

野村誠　「鍵盤ハーモニカによるワークショップ&ミニコンサート」

■空間部門

橋大成　「PSYCHEDELIC MEDITATION CAPSULE」

■映像部門

伊藤弘 from GROOVISIONS
映像コラージュ「groovision-works」
宅野祐介&中津誠貴&高瀬篤人 from Prim Facter
イメージ映像「Yuka Umedaブランドイメージ」
吉田ヤスコ&森原ノリユキ&スタッフ from MULTIS
CG「MULTIS WORKS」
奥村泰史　CG・映像「Untitled」
酒井章憲　映像・パフォーミングアート「スパイラルライフ」

日常の「コトバ」が人を発して生まれる「コトダマ」をみんなに意識してほしい。ミヤノタクヤ氏はCGを使って表現。

平面部門優秀賞
木屋町の「ビートルズ・ビートルズ」や「イーディー」の壁画を手がけた渡辺チカラ氏。先ほど北大路ビブレで「KISS」をテーマとした個展を開催したばかりだ。

「子供達のいない小学校はどうですか？長い間、歓声や足音が響いたこの場所に、こんな人影は見えませんか」久田多恵さん作。

立体部門優秀賞
カブトムシを形取った橋大成のこの作品、腹部がカプセルとなっており、その中でカプセルに写り込む映像を体験できる。

■主催：JAPAN CREATORS' CLUB・JCC'96 開催委員会
■共催：京都市
■後援：京都府、京都商工会議所、（財）平安建都1200年記念協会、（社）京都経済同友会、（社）京都青年会議所、（財）京都和装産業振興財団、（社）京都広告協会、（社）京都デザイン協会、京都織物卸商業組合、西陣織工業組合、京都新聞社、朝日新聞京都支局、毎日新聞社京都支局、読売新聞社大阪本社、産経新聞社、（社）共同通信社、日本繊維新聞京都支社、繊研新聞社、NHK京都放送局、KBS京都、エフエム京都、CLUB FAME
■協賛：アルファブランカ、アダム&イブ、石田大成社、イタリヤード、市田美容室、江戸川グループ、オーブ、オフィスメディアウェーブ、オムロン、からふね屋珈琲店、京つけもの西利、京都住宅、キリンビール、サイバーフェイム、K-スクエアコーポレーション、月桂冠、光琳社出版、小林歯科医院、三晃写真印刷、ザ・ユーの会、シーシーブラウン、JCC神戸、ジャパン・リスク・マネージメント、ジャンプ、新装大橋、セフティ、ソーホー、高松伸建築設計事務所、高見、中野製薬、パールトーン、花政、ビ・ファイン、ファンシー、ホテル日航プリンセス京都、フォトスタジオ・コーゾー、マールブランシュ、村上重本店、ワース、ワコール、ルシアン、ロイヤルオークホテル、ロマン吉忠、ワールドコーヒー、若林広幸建築研究所
■協力：フォースコミュニケーションズ

ともに部門賞を受賞した、イラストレーター渡辺チカラ氏とファションデザイナー仲野達夫氏。

審査委員長　石津謙介氏を囲んで。日本繊維新聞沖村氏も思わずピース。

JCC '96大賞を受賞したマルチーズにはニューヨーク研修旅行のほか、ホテル宿泊券など豪華な副賞が授与された。

内田裕也氏も飛び入りでアコースティックライヴを。

右より鍵盤ピアニスト野村誠氏と、京都写真家協会会長柴田氏、JCC会員の木村コウゾー氏。この夜、日常まったく顔を合わすことがないであろうクリエイター同志の交流も実現した。

JCC'96 THE GRAND PARTY

プレゼンテーターとして登場したジョー山中氏は「野生の証明」を熱唱。

JCC京都会長 宮田氏。その幅広い人脈でパーティを盛り上げた。

右より、株式会社ワースの代表、脇坂氏と本誌ディレクター辻川肇氏。様々な業種の後援企業の協力により、このイベントは開催された。

本誌プロデューサー五所光一郎氏はJCC'96総合プロデューサーとしてこのイベントの裏方を指揮した。

JCC京都の名誉会長、榎本幸一氏（株式会社ワコール会長）の挨拶で開幕したグランドパーティ。クリエイターだけでなく経済界の著名人も多数来場した。